

7. 管内養豚農場における PRRS 及び PCVAD 発生防止対策の検討

大分家畜保健衛生所

○細谷一恵・(病鑑) 安達恭子・羽田野昭

病鑑 榎園秀平

【はじめに】PRRS ウイルス（以下 PRRSV）感染による豚繁殖・呼吸器障害症候群（以下 PRRS）及び豚サーコウイルス 2 型（以下 PCV2）感染による豚サーコウイルス関連疾病（以下 PCVAD）は、養豚農家にとって甚大な経済的損失をもたらすため、対策が重要な疾患である。今回 PRRS、PCV2 ワクチン未接種農場において PRRS や PCVAD による死亡が認められたため、農場の現状把握のため、両ウイルスの浸潤状況調査と、各ステージに対する効率的な検査法の検討を行ったので、その概要を報告する。

【農場概要及び背景】母豚 250 頭規模の一貫農場。ワクチンプログラムとして、PRRS ワクチンは約 3 ヶ月に 1 回、母豚全頭の一斉接種を行い、PCV2 ワクチンは 21-25 日齢で接種していたが、死亡頭数増加を理由に両ワクチンの接種を中止。当該農家は以前から不定期に子豚舎での死亡頭数増加に悩まされており、原因究明と対策検討のため、農場におけるウイルスの浸潤状況把握を実施。

【浸潤状況調査方法】①40 日齢以上の血清 79 検体を材料に、PRRSV 抗体検査及び PRRSV、PCV2 遺伝子検査を実施。また、簡易的に採材できるロープ法でも同様の検査を実施。②生後 8-13 日齢の豚に対して、去勢時の精巢を用いた処理精巢検査により PRRSV、PCV2 遺伝子検査を実施。

【結果及び考察】①：血清による PRRSV 抗体検査では、分娩舎 3/5、子豚舎 9/14、肥育舎 27/29、母豚舎 24/29 が陽性。PRRSV、PCV2 遺伝子検査の結果、主に子豚舎で PRRSV、PCV2 の水平感染の可能性が示唆。PCV2 に関しては肥育舎、母豚舎でも遺伝子陽性が認められたが、リアルタイム PCR 法において遺伝子検出量が少量かつ、症状が認められず、不顕性感染が疑われた。PRRSV 抗体検査における血清と口腔液の一致率は、子豚舎 78.6%、肥育舎 52.6%、母豚舎 37.5%。PRRSV 遺伝子検査の一致率は、子豚舎 92.9%、肥育舎及び母豚舎 100%。但し肥育舎及び母豚舎の血清、口腔液から PRRSV 特異遺伝子は検出されなかった。PCV2 遺伝子検査の一致率は、子豚舎 35.7%、肥育舎 50.0%、母豚舎 71.4%であったが、母豚舎において口腔液で遺伝子陽性の豚房は血清で遺伝子陰性であったため、環境中の PCV2 を検出したものと考えられた。②：全て陰性。

【対策】今回の結果から農場に対し（1）PRRS、PCV2 ワクチンの再開及び継続的接種、（2）子豚舎における PRRSV 陽性房と陰性房隔離、（3）病畜の隔離飼育を指導。

【まとめ】今回の結果から、当該農場においては子豚舎におけるロープ法を用いた PRRSV 抗体検査及び PRRSV 遺伝子検査が豚にストレス無く実施できるスクリーニング検査として有効と考えられた。一連の検査及び指導により、当該農家は両ワクチンの接種を再開。今後も、移行抗体の確認のため、処理精巢検査での PRRSV 抗体検査の検証を実施するとともに、当該農家へ両ワクチンの継続接種や衛生指導を実施する予定。さらに子豚舎のロープ法や処理精巢検査による定期的なスクリーニング検査により、農場内の PRRS 及び PCVAD の発生防止を図る。